

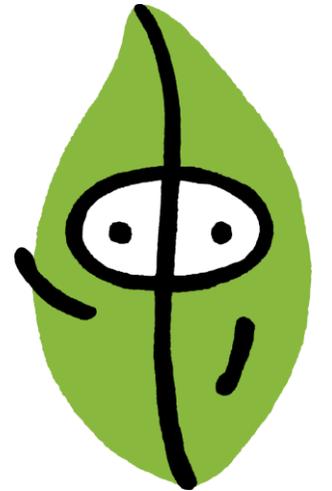
令和6年度 自治体間連携フォーラム



世田谷区下高井戸商店街、 日本大学文理学部との共働

中川町長 石垣 寿聰

2024.7.9



中川町公式ゆるキャラ
「じゅえる」

■次第■

1. 下高井戸商店街との共働
2. 日本大学文理学部との共働
 - (1)北海道中川町地域再生に向けてのプロジェクト
 - (2)相互連携・協力に関する包括協定
3. 中川町のこれから

1. 下高井戸商店街との共働



下高井戸商店街との交流の軌跡

平成12年

中川町商工会青年部が研修会を開催
その時の講師に下高井戸商店街を紹介される



平成13年3月

下高井戸商店街から3月の「しもたか大きくらまつり」に招待される
当時の町長・観光協会長らが初めて世田谷区下高井戸を訪問



このことをきっかけに、双方での交流が始まる

- ・中川町からはさくらまつりや区民祭りへの出店
- ・下高井戸商店街からは中川町モニターツアーへの参加 など





平成16年4月 下高井戸さくら祭り

平成18年10月 中川町視察



「ナカガワのナカガワ」の誕生

平成28年10月

地方創生推進交付金（現：デジタル田園都市国家構想交付金）の補助を受けて、下高井戸商店街の空き店舗を改装し、中川町の特産品販売や観光情報を提供するサテライトスペース「**ナカガワのナカガワ**」を開設

同時に、

「**中川町交流情報発信拠点施設運営協議会**」が下高井戸商店街、日本大学文理学部、世田谷区、中川町の4者で発足される

→**都市から地方への人の流れを促進**することを目的とする





平成29年10月14日
オープン1周年記念イベントの様子

2. 日本大学文理学部との共働



中川町の地域再生に向けてのプロジェクト

平成29年度～30年度

日大文理学部地理学科の佐野充教授（地域環境政策研究室）の指導の下、
『**北海道中川町の“地域資源を活用した地域づくりの可能性”**』をテーマ
に調査研究が行われた

●平成29年9月15日～19日（4泊5日）

調査内容：なかがわ秋味祭りの参加者意識調査

エコミュージアムセンターの利用実態

→教員・学生合わせて10名が参加し、合同野外実習を実施した

●平成30年8月2日～6日（4泊5日）

調査内容：化石を活用した地域づくりの可能性

空き家の少ないまちづくり

→14名の参加（うち前年からの継続メンバー6名）



平成29年9月 秋味祭りにて



平成30年8月 聞き取り調査の様子

中川 d e 地方創生シンポジウム

H29～30に行われた調査研究の成果は「北海道中川町の地域再生に向けてのプロジェクト『地域資源を活用した地域づくりの可能性』」
(2019.01)としてまとめられた

平成31年2月4日

地方版総合戦略「中川町まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年～平成31年）」の総括、及び次期総合戦略に向けた「**中川町de地方創生シンポジウム**」が開催され、学生・指導教員による研究発表が行われた

日本大学文理学部地理学科調査報告によれば、

- ・地域づくりは**地域が主体となって中長期的に実践されるもの**
- ・**地域の状況によって取り組みの内容を適宜見直す**ことが必要





平成31年2月4日
 なかがわde地方創生
 シンポジウム



日本大学文理学部との相互連携・ 協力に関する包括協定

令和2年度

日大文理学部との交流の在り方を模索
→コロナ禍による中断、休止が相次いだ

令和3年6月22日

交流事業の活性化を目的として、「**中川町と日本大学文理学部との相互
連携・協力に関する包括協定**」を締結した（WEB中継での調印式）

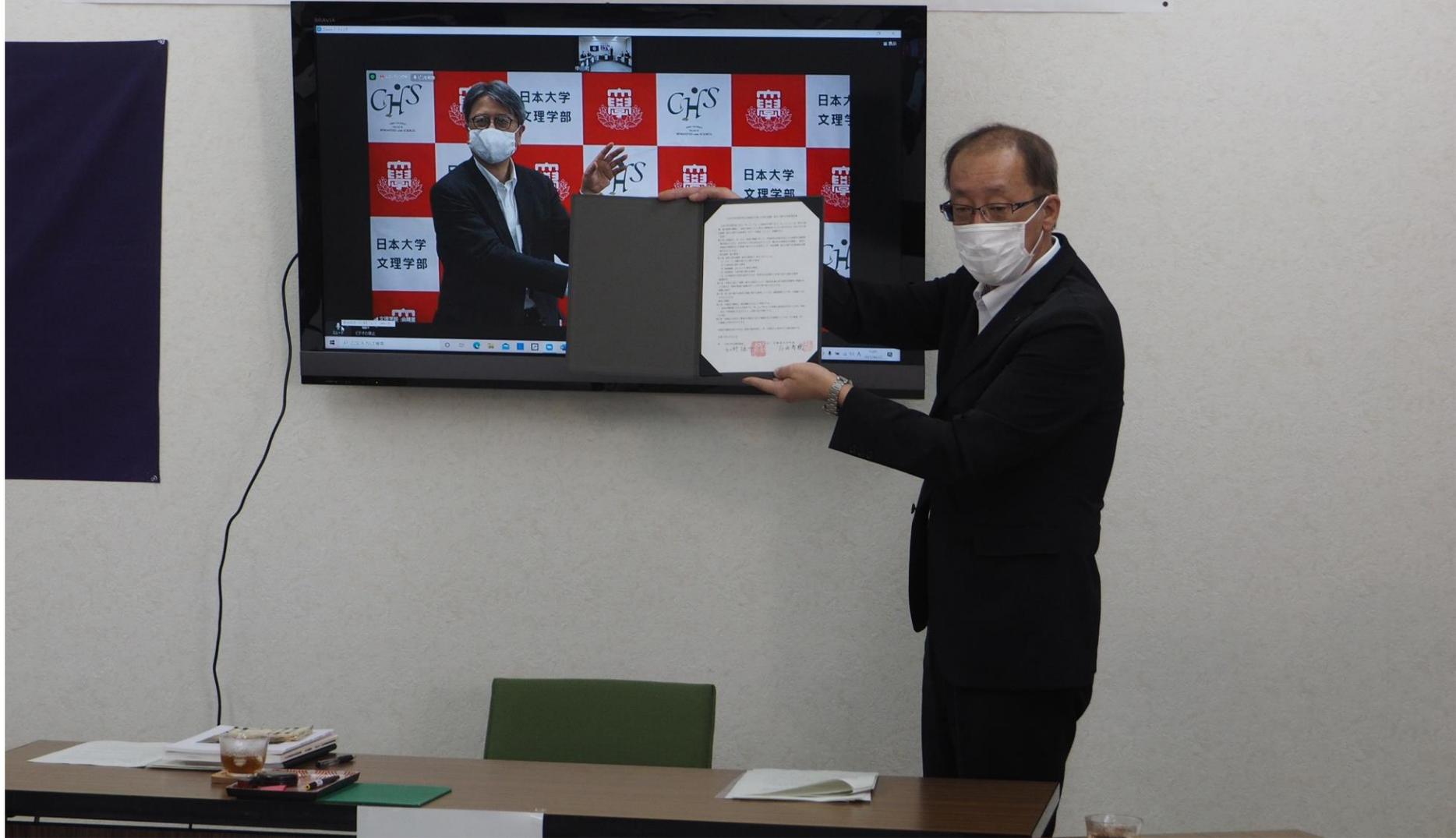
協定による主な成果

- ・ 中川町のまちづくりに関する調査研究への助成事業（R4～）
- ・ 地域再生プロジェクト派遣団の受け入れ（令和4年8月23日～26日）
- ・ 中川町の中学生が校外学習で大学を訪問（令和4年10月5日）



令和3年6月22日

日本大学文理学部と中川町との相互連携・協力に関する 包括協定書調印式





令和4年8月
地域再生プロジェクト派遣団



令和4年10月
中川町の中学生が大学を訪問

人と自然の共生による地域づくり

令和5年9月13日～16日（3泊4日）

前述の研究費助成を受けて、総合研究「**北海道中川町における人と自然の共生による地域づくり**」が行われ、日本大学文理学部の学生20名と指導教員2名の計22名が参加した

主な研究テーマ

- ・ 空き家の現状と活用
- ・ まちづくりの方向性
- ・ 化石資源活用の実態調査
- ・ 観光業への取り組みとその課題

H29年度以降の研究成果の蓄積→**中川町**の地域づくりに関する研究が深化
幅広いテーマについて総合的な調査が行われるようになった





令和5年9月
総合研究の様子



中川町のこれから



持続可能な地域づくりに向けて

全国の多くの自治体と同じく、中川町も基幹産業の衰退や人口減少、高齢化といった問題に直面している

→過疎化の急速な進行により消滅可能性が叫ばれる自治体も

自治体の財政難によりハード面での開発路線は厳しいことから、地域資源を活用したまちづくり・地域づくりが全国的なトレンドに

中川町と下高井戸商店街とのつながりは、世田谷区、日本大学文理学部との交流へと拡大した

→地域外からの人材、関係人口の増加をもたらした

地域の魅力を発信し続けること → 新たなつながりを創出

地方への人の流れをつくるスキームの確立 → 地域の持続可能性



地域課題解決に向けた 地域商社設立及び観光 事業構築の取り組み

2024年7月9日

長野県 豊丘村



とよおか
旅時間
豊丘村観光協会

Minami-Shinshu Toyooka Marche
道の駅 南信州とよおかマルシェ

Toyooka-Tabijikan
豊丘村観光拠点施設 とよおか旅時間

豊丘村の概要

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散

● 人口・世帯数 R6.1.1現在

6,567人 2,238世帯（住民基本台帳）

※高齢化率33.5%

※人口は平成12年頃から減少傾向

※H26比較 6,970人→6,567人（△403人・△5.8%）

● 地 勢

面積：76.79km² 標高：425m（役場所在地）

中央アルプスと南アルプスからなる伊那谷の南部、天竜川が形成した日本一とうたわれる河岸段丘に位置する。



豊丘村の概要

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散



● リニア中央新幹線

2027年に開業予定
長野県駅（飯田市）までは10分程度。

● 三遠南信自動車道

飯田市（中央自動車道）と
浜松市（東名高速道路）を
結ぶの自動車道。近い
将来の全線開通が予定さ
れている。

● これらの効果を豊丘村
や地域に波及させるこ
とを見据えた地域づく
りが必要とされている。

豊丘村の概要

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散

全国に誇る、
特産。



● まつたけ

味、香り、収穫量ともに日本一

● りんご

長い日照時間と大きな寒暖差で味が濃い

● 市田柿 (干し柿)

南信州が誇る高級干し柿ブランド



豊丘村の課題

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散

地域課題① 豊丘村における集落維持

- 急激な人口減少と高齢化により中山間地域は**限界集落化**が危惧
- 交通弱者が安心して暮らすための**交通環境の整備**が緊要
- 住民**生活に必要な店舗** スーパーが1軒しかない

住民の
潜在的
不安



豊丘村の課題

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

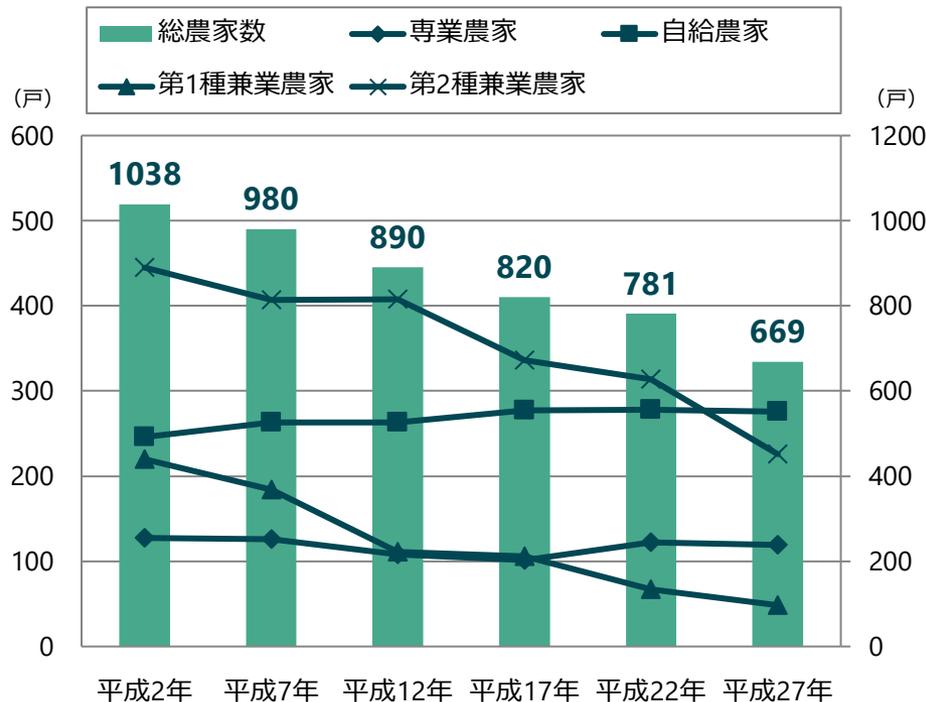
観光拠点

役割の分散

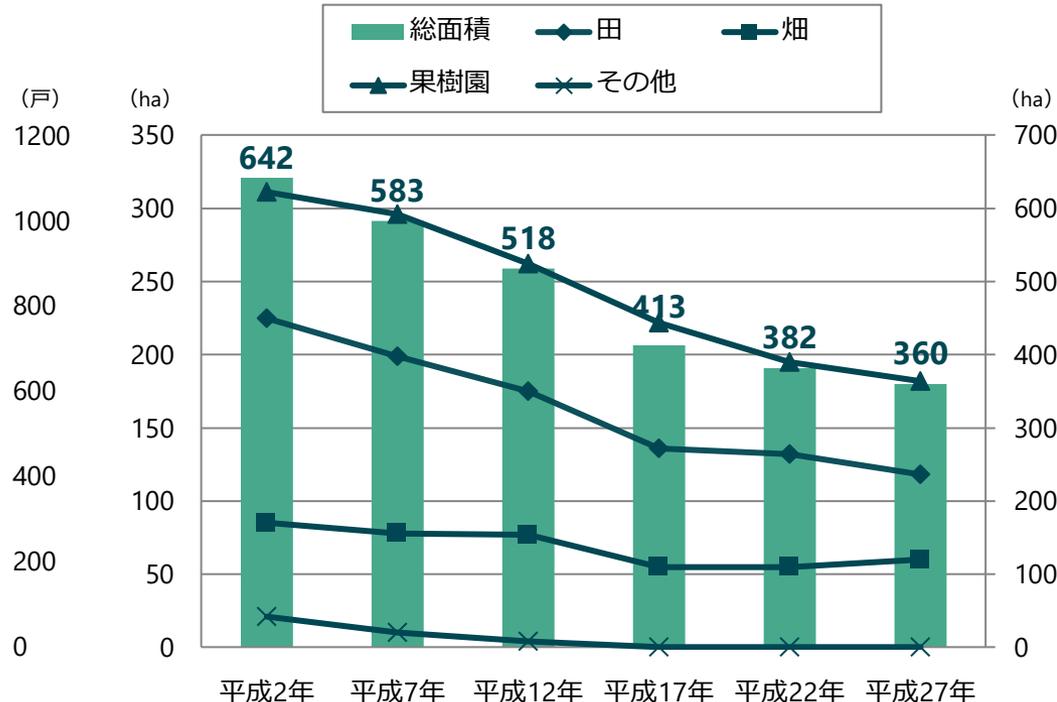
地域課題② 基幹産業「農業」の衰退 ⇒ 地域経済の縮小

- 高齢化と農作物の価格低下 ⇒ **農業従事者の減少 経営耕作面積が減少**
- 7割の農家に後継者がいない ⇒ **農業従事者が半減**することが危惧される

農家数の推移



経営耕地面積の推移



道の駅を核とした課題解決

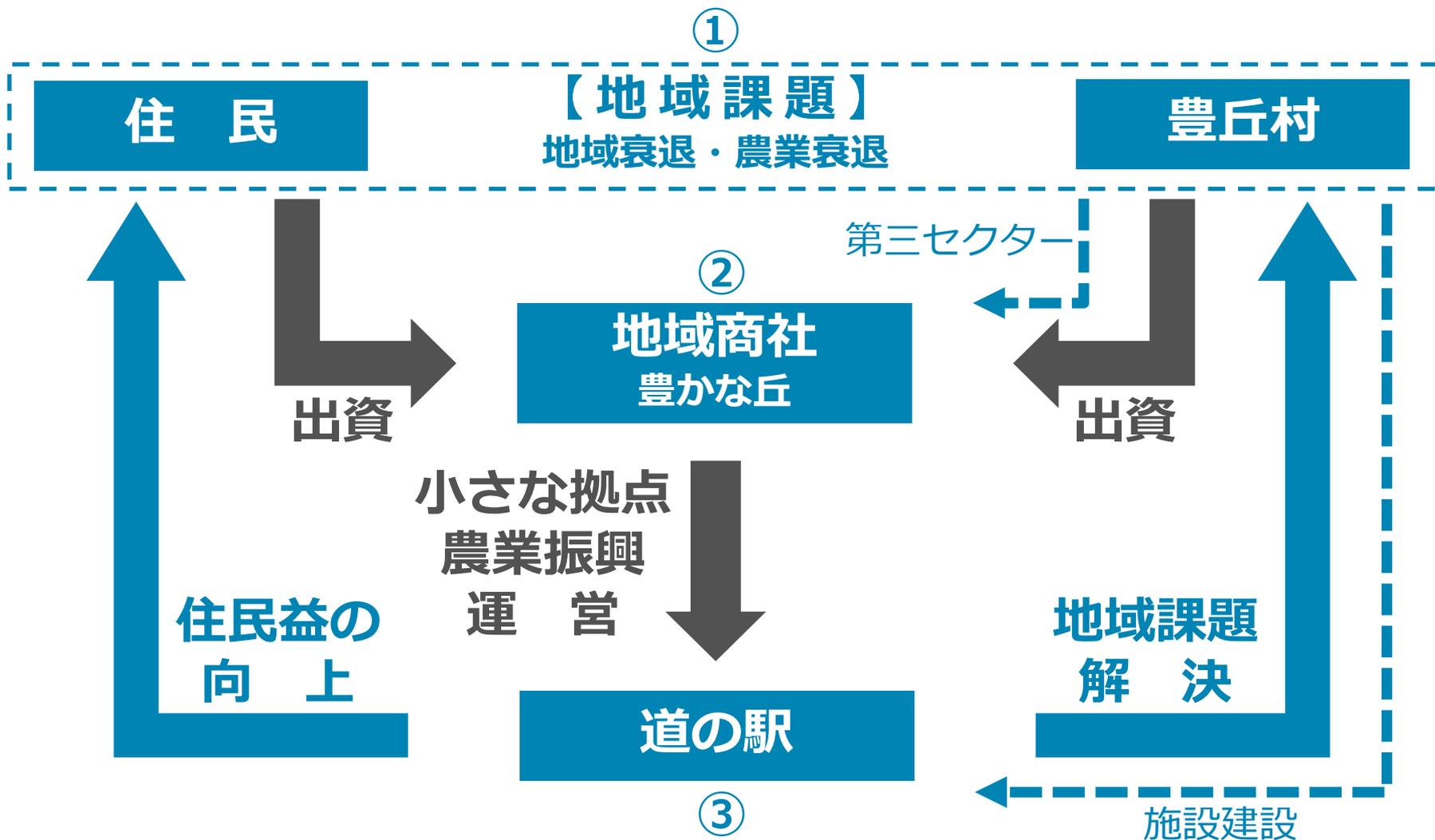
豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散



道の駅を核とした課題解決

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散

「道の駅 南信州とよおかマルシェ」

設置者：豊丘村

開業：平成30（2018）年4月27日

総事業費：9億9,200万円

国庫補助 4億2,454万円

地方債 3億4,000万円

一般財源 2億2,746万円

敷地面積：10,076㎡

延床面積：3,517㎡

駐車場数：普通車120台 大型車7台 身障者5台

運営会社：指定管理

株式会社 豊かな丘（第三セクター）

従業員数：約40人（パートタイム含む）

来駅者数：1,014,000人（R4年6月～R5年5月）



地域課題①の解決策 道の駅を核とした小さな拠点

豊丘村の概要

地域課題

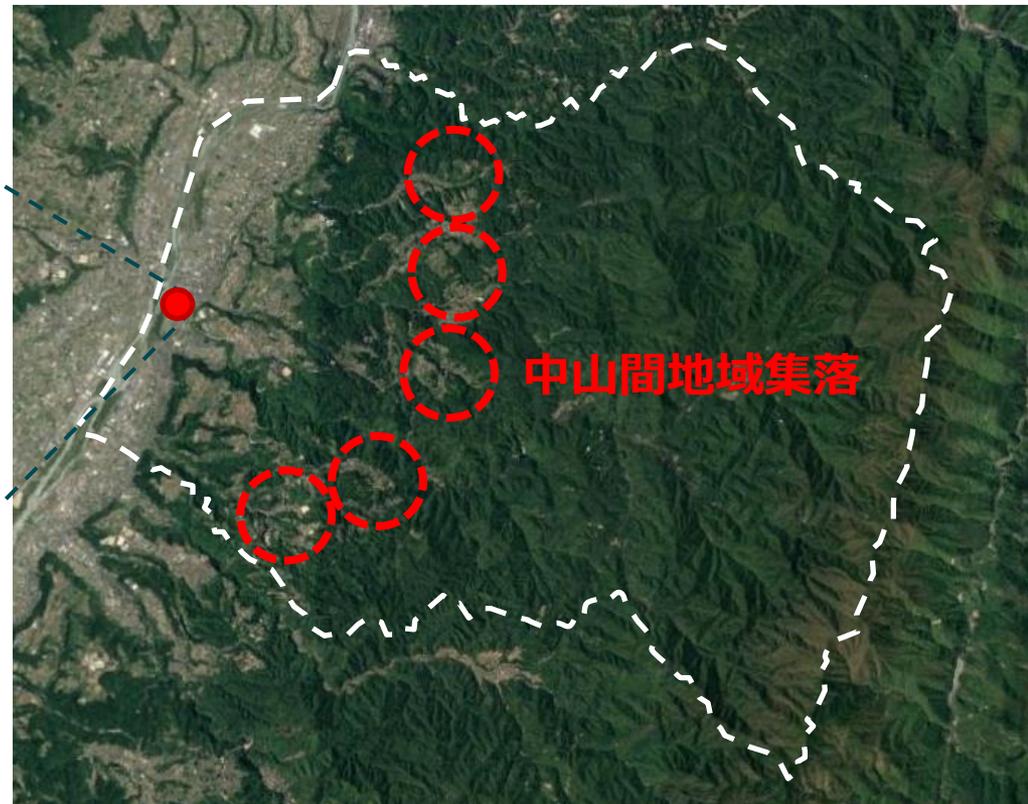
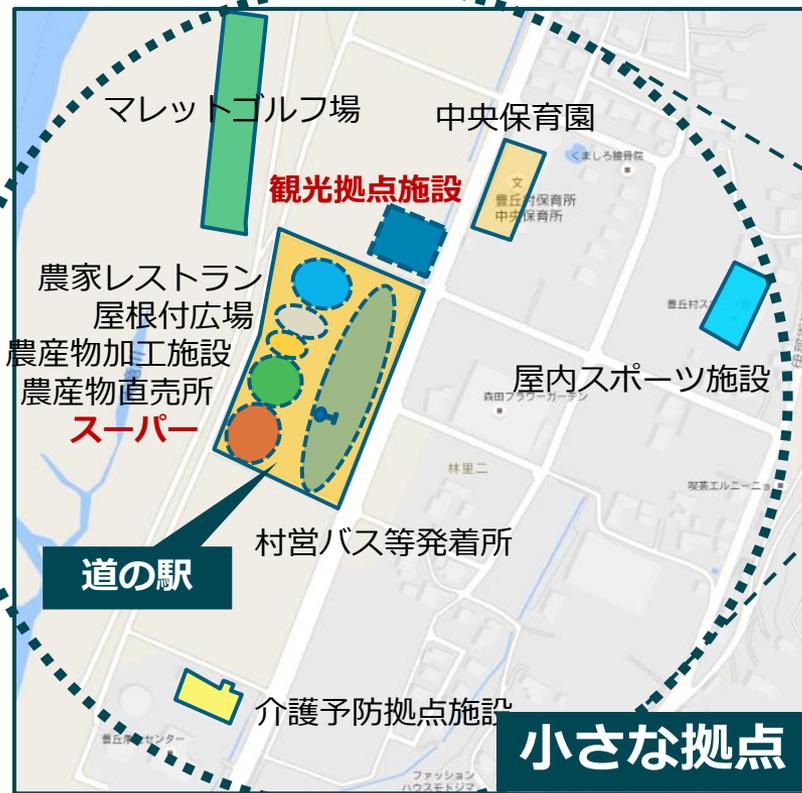
地域商社

観光拠点

役割の分散

道の駅を中心に生活を支える拠点を形成

- 住民が安心して暮らせるために「道の駅」を中心に**生活を支える拠点を形成**
- 日常生活に必要な**スーパーを道の駅に移転整備**（地方創生拠点整備交付金活用）
- 観光による誘客を増大させるため**観光拠点施設を整備**



地域課題①の解決策 道の駅を核とした小さな拠点

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散

道の駅を核とした小さな拠点イメージ



屋内スポーツ施設③

中央保育園④

①南小学校

観光拠点施設⑤

マレットゴルフ場⑥

②介護予防拠点施設

道の駅 南信州とよおかマルシェ

- (株)豊かな丘 : 指定管理を受け道の駅を運営 第三セクター
- 農産物直売所 : 地元農産物の販売により農家の所得向上・販路拡大
- 農家レストラン : 地域食材を活用した菜園ビュッフェレストラン
- 農産物加工施設 : 地元農産物の付加価値を高める
- イベント広場 : 住民のコミュニティスペース
- スーパー : 住民の日常生活を支える日用品店
- バス発着所 : コミュニティバス等により住民の交通を確保

地域課題①の解決策 道の駅を核とした小さな拠点

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

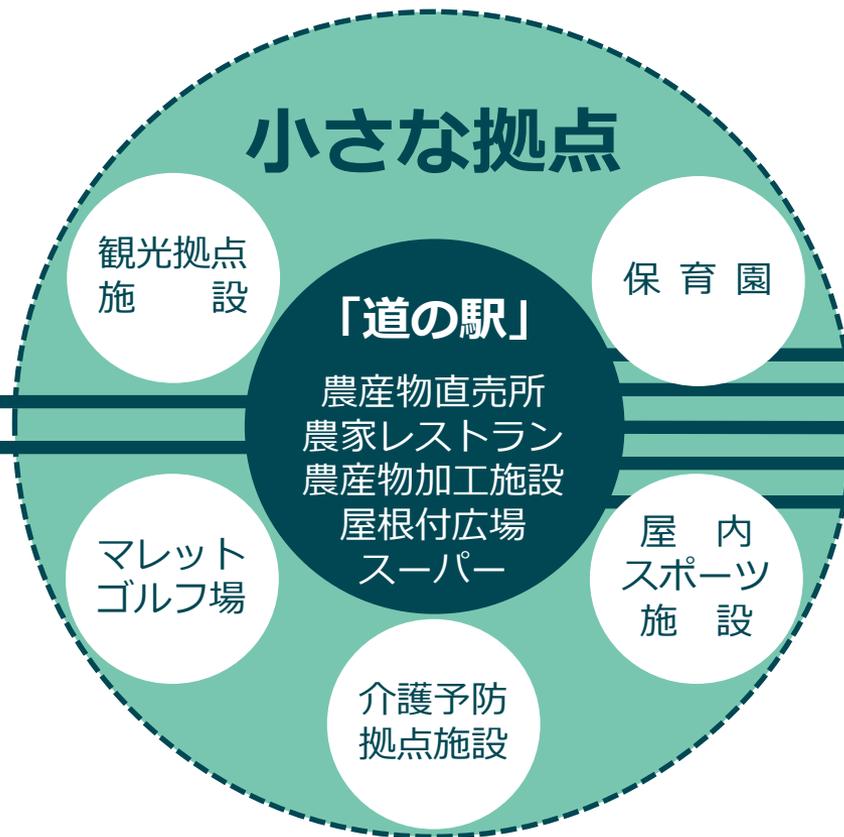
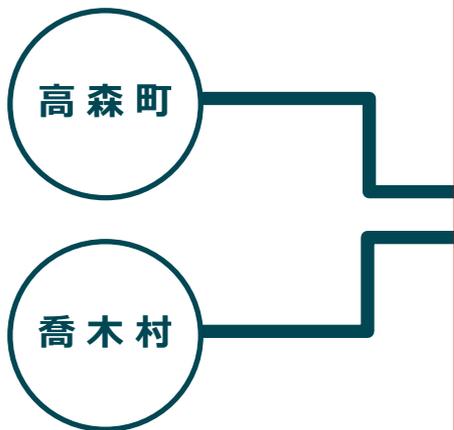
観光拠点

役割の分散

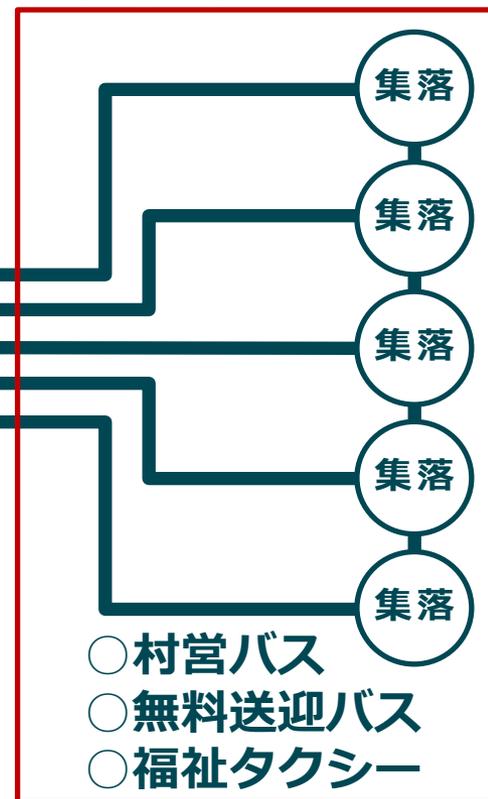
取組② 道の駅を中心に交通ネットワークを形成

- 「道の駅」と村内集落を村営バス等の交通手段で結び**生活圏を形成**
- 近隣町村のコミュニティバスと結節する**ハブ機能**を整備

近隣町村と結節 ハブ機能



村内交通 ネットワーク



地域課題①の解決策 道の駅を核とした小さな拠点

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散

道の駅を核とした小さな拠点イメージ



南アルプス

伊那山脈

長沢

佐原

中山間地域集落

集落生活圏

堀越

福島

壬生沢

コミュニティバス等により
交通手段を確保

天竜川

総合病院

● JR市田駅

● 広域バス停
(飯田市立病院行き)

高森町

喬木村

小さな拠点

道の駅 南信州とよおかマルシェ

地域課題②の解決策

6次産業化による地域再生

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散

優れた地域資源を活かしたい

①農産物 りんご・もも・市田柿・野菜など



③農業体験観光

桃狩り観光・りんごオーナーなど



②農産物加工技術 漬物・アップルパイなど



道の駅 南信州とよおかマルシェ



南信州の台所
とよおかマルシェ
道の駅 | 豊丘村

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散

四季彩市場

shikisaiichiba

農産物直売所

「南信州の台所」地元の農産物、農産加工品が集まる



道の駅 南信州とよおかマルシェ



南信州の台所
とよおかマルシェ
道の駅 | 豊丘村

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散

道の駅南信州とよおかマルシェ かあちゃんの店

|| 農産物手づくり加工 ||

「村のかあちゃん」が地元農産物を手づくり加工



豊丘村産の農産物でつくる漬物各種



豊丘村名産のりんごを使った「林檎の産地のアップルパイ」

道の駅 南信州とよおかマルシェ



南信州の台所
とよおかマルシェ
道の駅 | 豊丘村

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散

道の駅 南信州とよおかマルシェ かあちゃんの店

|| 農産物手づくり加工 ||

「村のかあちゃん」が地元農産物を手づくり加工



豊丘村産の農産物でつくるジュース



豊丘村産の農産物でつくるジャム

道の駅 南信州とよおかマルシェ



南信州の台所
とよおかマルシェ
道の駅 | 豊丘村

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散



惣菜 SO-zai くらら

|| お惣菜 ||

地元農産物にこだわった手づくり惣菜





豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散

Bread &
Sweets

きらら

|| 手づくり焼き立てパン ||
国産小麦100% 地元農産物がマッチする



とうものろこしパン 地元農産物を具材に使ったパンが並ぶ



安心安全 国産小麦100% 生地から手づくりの食パン

道の駅 南信州とよおかマルシェ



南信州の台所
とよおかマルシェ
道の駅 | 豊丘村

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散

Bread &
Sweets

きらら

|| ソフト&ジェラート ||
南信州ソフトクリーム&手づくりジェラート

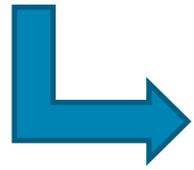


地元牛乳100%ソフトクリーム



地元農産物を使った手づくりジェラート

「モノ売り」で解決 = 道の駅 南信州とよおかマルシェ



農家の**販路拡大**と**所得向上**
農産物の**付加価値**の向上

農産物直売所

農産物加工販売施設

(惣菜・パン・ジェラート)

「コト・ヒト・トキ売り」で解決

= 豊丘村観光拠点施設 とよおか旅時間



農業体験**観光**の展開

観光案内所・屋根付休憩広場

とよおか旅時間

地域商社「株式会社 豊かな丘」と観光拠点施設
「とよおか旅時間」の2拠点で「モノ・コト・
ヒト・トキ」事業を展開し、農産物の価値上げ

豊丘村観光拠点施設 とよおか旅時間

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散

豊丘村観光拠点施設「とよおか旅時間」

設置者：豊丘村
開業：令和2年（2020）
5月8日
事業：観光案内
観光事業者受託事業
観光協会自主事業
農業観光
レンタサイクル事業
農家レストラン事業
管理：豊丘村産業振興課
観光振興係
運営：一般社団法人
豊丘村観光協会
従業員数：約20人
（役場職員・パートタイム含む）

これまで「とよおかマルシェ」が全てを担っていたものの、「モノ」と「コト」ではそもそもターゲットが違う。そこで誕生したのが「とよおか旅時間」豊丘村で「遊ばせる」を目的に。

豊丘村観光協会

とよおか旅時間

豊丘村観光拠点施設 とよおか旅時間

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散

観光拠点の取り組み

体験事業による価値の向上と滞在時間の延長



サイクリングガイドツアー



レンタサイクル



桃狩り



りんごの木オーナー



竹の子狩り



野菜狩り

豊丘村観光拠点施設 とよおか旅時間

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散



菜園ビュッフェレストラン
**VEGE-FULL
KITCHEN** ベジフル
キッチン

|| 農家レストラン ||
地元の野菜や果物で彩られたビュッフェレストラン



採れたて地元農産物を使ったメニュー

ベジフルキッチンを支える地元生産者さん

2つのターゲットを役割分散

豊丘村の概要

地域課題

地域商社

観光拠点

役割の分散

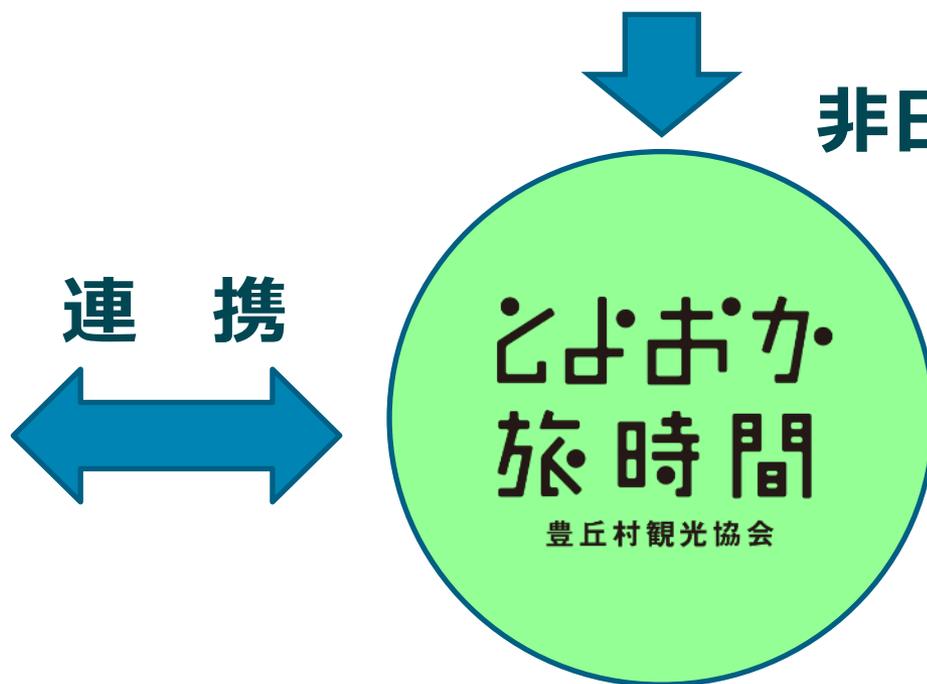
お土産や食材が買いたい

フィールドで遊びたい

日常



非日常



連携

お客様の「満足」を2拠点でターゲットに合わせて補完し、農産物の価値を両輪で上げていく取組み

ご清聴ありがとうございました

長野県 豊丘村

南信州の台所



とよおか
マルシェ

道の駅 | 豊丘村

とよおか
旅時間

豊丘村観光協会

新拠点（庁舎及び小中一貫校）整備 による地域づくりと跡地利用について

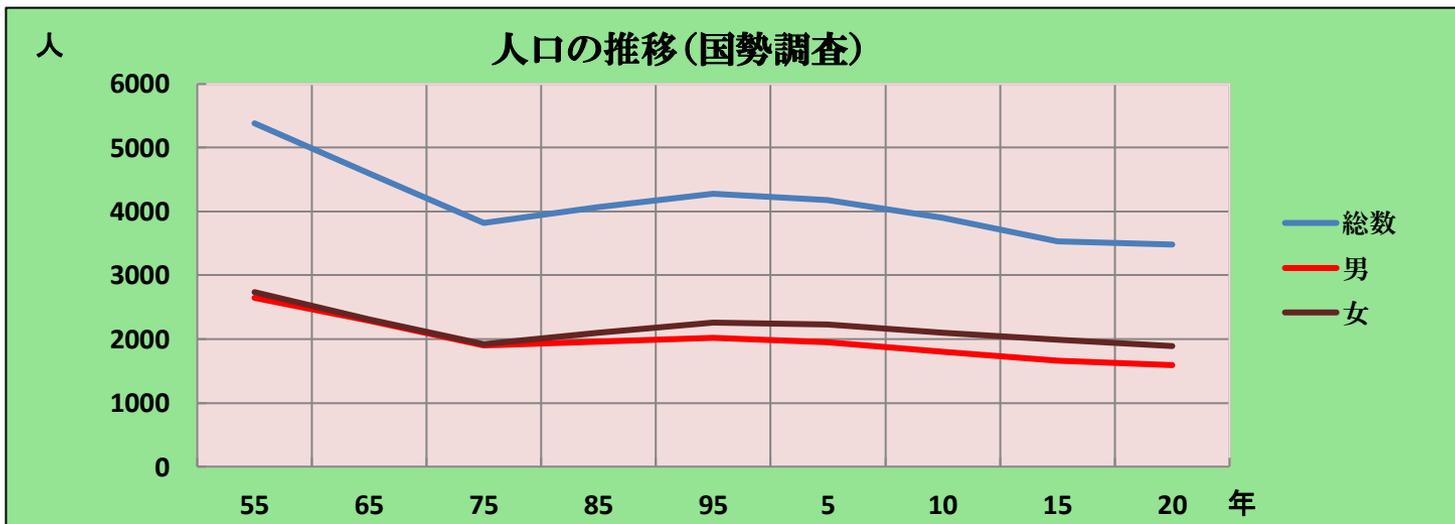
令和6年7月9日

群馬県川場村

川場村長 外山 京太郎

川場村の地勢

- 位置 群馬県の北部地域に位置し、日本百名山のひとつ武尊山の南麓に位置する。
- 面積 総面積85.25km²
その内、森林が86.5%(うち国有林55%)、
耕地が7%を占める自然豊かな農山村である。
- 人口 3,485人(2020年国勢調査)



- 河川 武尊山を源とする4本の一級河川
武尊山の伏流水が湧水となり村に恵みをもたらす。
- 交通 上越新幹線 上毛高原駅から車で40分
JR上越線沼田駅から車で25分
関越自動車道沼田ICから車で10分
東京都世田谷区からは約二時間半
- 産業 基幹産業は、農業
 - ・米(川場産コシヒカリをブランド化(雪ほたか))
 - ・こんにゃく(全国生産の9割以上を群馬県内で生産)
 - ・りんご(ふじ、ぐんま名月、スリムレッド、陽光etc.)
 - ・日本酒(2件の酒蔵が有り)
 - ・その他、ヨーグルト・チーズ・地ビールも大人気

田園プラザ事業

1. 目的と多機能性

- ・ 村の情報発信拠点機能
- ・ 村民相互、来村者との交流・情報交換の場
- ・ 農産物の消費拡大
- ・ 地場産品の開発、PR、消費拡大と流通促進
- ・ 就業の機会の拡大
- ・ 来訪者の購買ニーズへの対応と飲食の提供
- ・ 村内消費の拡大
- ・ 災害時避難施設機能



道の駅田園プラザ川場全景

2. 事業規模

- ・ 当初整備期間 平成4年度 ~ 平成10年度
- ・ グランドオープン 平成10年
- ・ 敷地面積 60,000㎡
- ・ 事業費用 31億4千万円

3. 表彰等

- ・ 2014 国土交通省 全国道の駅 全国モデル選定
- ・ 2015 第七回観光庁官賞表彰
- ・ 2022~2023「じゃらん」全国道の駅グランプリ 第1位



ファーマーズマーケット

川場村役場 新庁舎
kawaba BASE



2023年10月29日 落成式
2023年11月 6日 開庁

2023年10月29日 新庁舎落成式



ごあいさつ

住民が安心して生活できるための拠点施設として、役場庁舎、交流ホール、むらの学習館、エネルギーセンターを整備いたしました。そのほか、子ども広場や防災倉庫・防災トイレなどの周辺施設も整備され、これら施設一帯の名称を「kawaba BASE」と致しました。

防災機能を備えた「役場庁舎」、世代や地域を越えた活動が期待される「交流ホール」、人々が集い・学ぶ「むらの学習館」。それぞれの施設では木質チップボイラーや太陽光など再生可能エネルギーが導入され、また、村有林から搬出された杉や唐松などの木材が建物各所に使われており、木の温もりを感じとれるものとなっています。

新車で洗練された各施設は、効率的な行政の推進場所として、また、行政のサービスセンターとして、皆様方の期待に十分こたえられるものと確信しています。

川場村長 外山 京太郎

川場ベース 完成までのあゆみ

平成 28 年 3 月 (2016)

第 4 次村総合計画へ新拠点構想及び上宿原土地改良事業を盛り込む

平成 30 年 2 月 (2018)

KAWABA 国際自然文化サミットにて川場村の 30 年ビジョン (新拠点構想など) を発表

令和 1 年 12 月 (2019)

村議会にて「上宿原土地改良事業計画」承認議決される

令和 2 年 9 月 (2020)

村議会にて「拠点整備事業計画」承認議決される

令和 4 年 2 月 (2022)

拠点施設用地取得、役場庁舎新築工事着工する

令和 4 年 4 月 (2022)

むらの学習館、交流ホール、防災倉庫、遊具設置工事着工する

令和 5 年 2 月 (2023)

上宿原土地改良事業完了する

令和 5 年 3 月 (2023)

むらの学習館、交流ホール、防災倉庫、遊具設置工事完了する

令和 5 年 9 月 (2023)

村議会にて庁舎移転に伴う関係議案議決される

令和 5 年 10 月 (2023)

役場庁舎を含む関連施設全て竣工し落成式挙行される

拠点整備事業費 4,463,000,000 円 (用地取得費含む)



東側外観

川場ベースの概要

発注者：川場村

設計・監理

建築：プランツアソシエイツ

構造：KAP

設備：森村設計

サイン・色彩：KMD

土木設計

プロファ設計

施工

川場村役場庁舎棟・エネルギーセンター棟・外構：

関東・鳳屋・角屋特定建設工事共同企業体

交流ホール棟：株式会社工務所

むらの学習館棟：沼田土建株式会社

防災倉庫・トイレ棟：関東建設工業株式会社

施設概要

敷地面積 10,774.43 m² (1 工区)

建築面積 3,190.41 m² (1 工区合計)

延床面積 4,463.11 m² (1 工区合計)

[役場庁舎 / 交流ホール]

建築面積 1,952.12 m²

延床面積 2,982.20 m²

階数 地上 2 階

[むらの学習館]

建築面積 273.09 m²

延床面積 733.64 m²

階数 地上 2 階、地下 1 階

[エネルギーセンター]

建築面積 386.80 m²

延床面積 354.58 m²

階数 地上 2 階

[防災倉庫・トイレ]

建築面積 78.83 m²

延床面積 118.10 m²

階数 地上 2 階

問い合わせ先

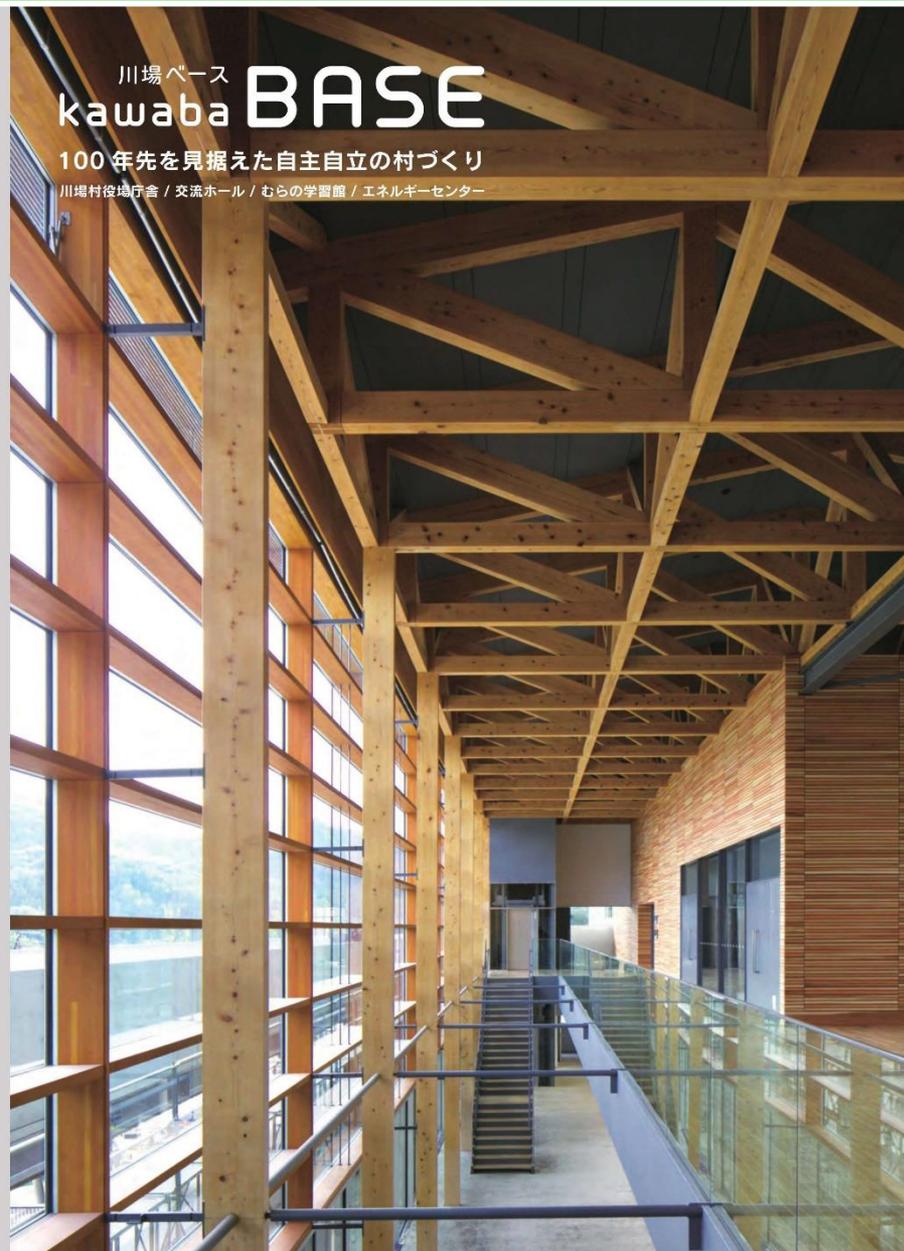
川場村役場

〒378-0101

群馬県利根郡川場村大字谷地 3200 番地

Tel : 0278-52-2111

Fax : 0278-52-2333



川場ベース kawaba BASE

100 年先を見据えた自主自立の村づくり

川場村役場庁舎 / 交流ホール / むらの学習館 / エネルギーセンター

川場ベースとは

川場村では、100年先を見据えた自主自立の村づくりを進めており、そこでは、滞留・交流人口の維持・増加を図りながら、老朽化した村施設の更新を行うと共に、災害・有事への備えを行うことが謳われています。こうした理念を具体的な将来像へと繋げるべく、行政と経済の拠点を集約し、持続的な経済・文化発展の基盤をつくることを目標とした新拠点構想が生まれました。

今回、上宿原地区の畑地帯を区画整理し、農用地の集団化及び汎用化によって生産性の向上を図ると共に、約2.3haの非農用地を創出し、拠点施設用地としました。その上で、用地を北側と南側の2つの工区に分け、北側1工区には、役場庁舎を中心とする学習館、交流ホール、エネルギーセンター、防災倉庫が連絡ブリッジによってつながっています。

拠点施設は、これからの川場村の中心となるという意味を込めて「川場ベース」と名付けられました。これらの施設が村の人々に親しまれ、末永く愛される施設となることが期待されています。

川場ベースの建物

拠点施設の設計では、機能一つにまとめた巨大な施設をつくるのではなく、川場村に相応しい風景となるよう、主屋のまわりに離れが連なるような緩やかにつながる施設のあり方を目指しました。その上で、庁舎においては、一つのフロアで窓口対応が可能な既存庁舎の利便性を生かしながら、より快適で機能的な施設とすると共に、災害対策など今後、より重要となる庁舎機能を拡充しています。

また、木材資源の有効活用と共に、林業を産業とする川場村のイメージを視覚化する意味でも、構造材や外壁、床材などに積極的に地場産木材を利用しています。特に、庁舎待合ロビーは、吹抜け上部に、杉の製材による架構が大胆に展開し、広場に面したファサード越しに周囲の山並を望む明るく開放的な空間となっています。



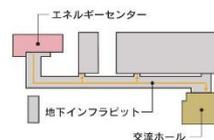
人々が集ラント広場



東側からの全景

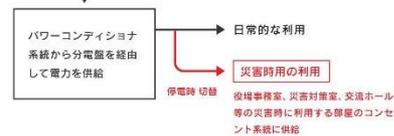
太陽光発電設備

エネルギーセンターの屋上と交流ホールの屋根には合計204枚の太陽光パネルが設置されています。川場ベースで使用する最大電力の約半分(100kW)を賄う計画となっています。発電した電力は、日常的にそのまま施設で利用するほか、エネルギーセンターでは屋上に92kW相当の蓄電池を備えており、災害時の拠点施設として必要不可欠な非常用発電機と共に、災害時にも利用可能な計画としています。



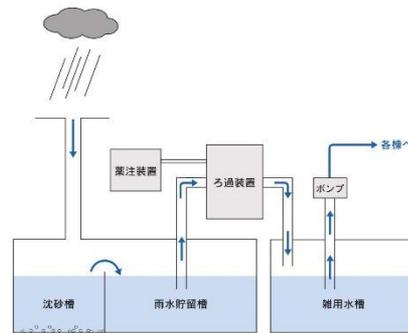
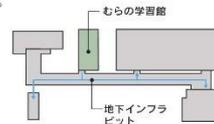
交流ホール 屋根 太陽光パネル 71.2kW

エネルギーセンター 屋根 太陽光パネル 29.7kW



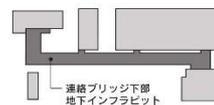
雨水利用

川場ベースでは、自然エネルギーの有効利用および災害の長期化に対する水源の確保を目的として、屋根雨水の集水による雑用水(トイレの洗浄水)利用を行っています。具体的には、庁舎とむらの学習館の屋根に降った雨を、むらの学習館地下ビットに設けた雨水貯留槽および濾過装置を介して雑用水槽に貯水しています。雑用水槽からは、停電時にも運転が可能なポンプを利用して、各建物へ送られています。雑用水槽は、約15m³の容量を持ち、3日分の利用を賄うことができます。



地下インフラピット

川場ベースの各建物を結ぶ連絡ブリッジの下部には、基礎躯体を利用したピットを設け、電気や水道などインフラ設備の配管ルートとしています。電気や空調熱源はエネルギーセンターから、上水や中水(雑用水)、消火用水などはむらの学習館から、それぞれこのピットを通して各建物へと供給されています。ピット内は、点検用に通行も可能となっており、メンテナンスや新規インフラの増設などにも対応することができます。





交流ホール



学習室 2(むらの学習館 2F)



ホワイエ (庁舎 2F)



ロビー (庁舎 1F)

2F 連絡ブリッジ

各施設を結ぶ連絡ブリッジからは、美しい川場の風景を望むことができます。また、連絡ブリッジの地下部分はエネルギーセンターから各建物へと、電気や空調などのインフラが通るピットとなっています。



学習室 2 (むらの学習館 2F)

2階の学習室では、より落ち着いた学ぶことができるほか、会議や講演などの利用も可能です。

学習室 1 (むらの学習館 1F)

図書スペースのある学習室では、大きなテーブルや窓際のカウンターなど、好きな場所で学ぶことができるほか、小さなお子さん向けのスペースもあります。晴れた日は外のテラスも利用できます。



エネルギーセンター

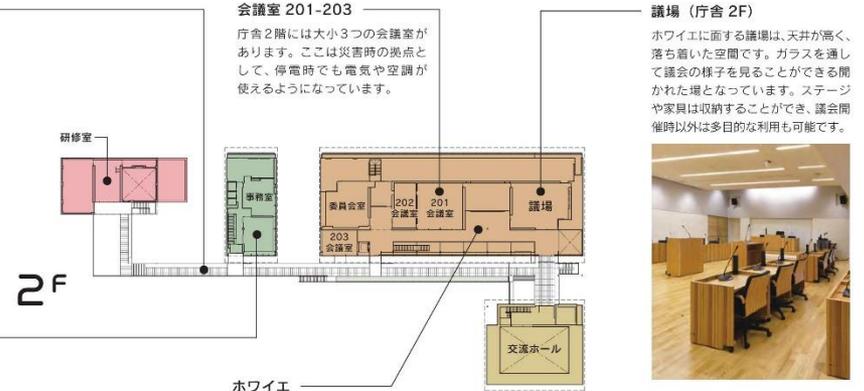
木チップボイラーおよび関連する空調設備をはじめ、受変電設備や非常用発電機、太陽光発電による蓄電池など、川場ベース全体のエネルギー供給機能を担っています。

防災倉庫・防災トイレ

川場ベースの一角には、災害に備えた備蓄倉庫と、停電や断水時にも利用可能な防災トイレがあります。

子ども広場

木材を活用した遊具がある広場です。周囲にはベンチがあり、休憩や見守りができる安心・安全な遊び場です。



議場 (庁舎 2F)

ホワイエに面する議場は、天井が高く、落ち着いた空間です。ガラスを通して議会の様子を見ることができる開かれた場となっています。ステージや家具は収納することができ、議会開催時以外は多目的な利用も可能です。

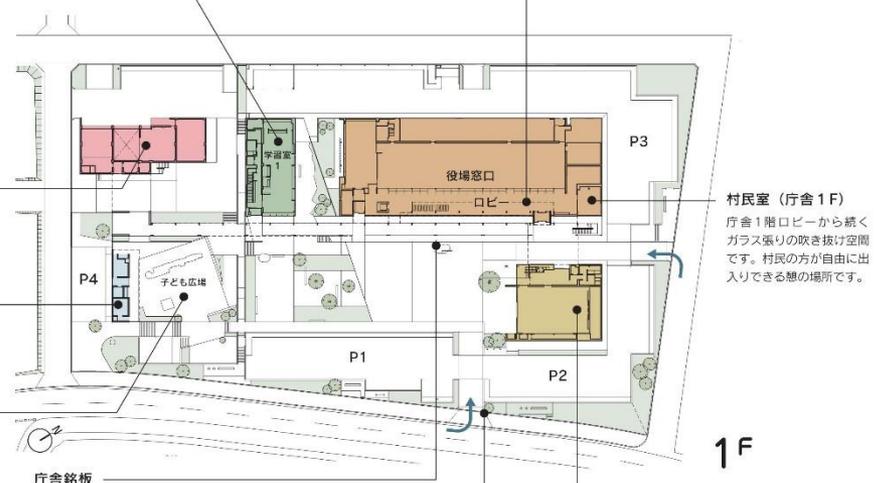


ホワイエ

2階ホワイエの壁面は川場産の杉材がふんだんに使われています。議場の前には大きなサークルベンチがあります。

庁舎 ロビー

庁舎1階ロビーは明るく開放的な吹き抜け空間となっています。頭上には、杉の製材が作り出すダイナミックなトラスの架構が広がります。



庁舎銘板

巨石を活かした村役場の表札です。



アプローチ

駐車場入口を示す山型のサインは、川場村から望む山の風景と建物の形とを重ね合わせたものです。



交流ホール

交流ホールは、講演や催事など様々な利用可能な多目的なスペースです。構造材としての杉材のほか、壁のヒノキや床のクリ材など、川場産の木材で囲まれた温かみのある空間となっています。イベント時には外のテラスを介して、広場との一体的な活用もできます。

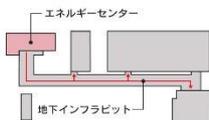
自然エネルギーの取り組み

川場村の新たな拠点となる庁舎をはじめとする各施設の計画にあたって、高効率・省電力設備機器の採用や、施設の運用計画に合わせたコンパクトな制御方式の採用など、省エネルギー性を考慮した計画であることはもちろんですが、自然通風や自然採光を取り入れるなど積極的に自然エネルギーの活用も図っています。さらに、村の産業である林業から生まれる木チップを燃料とする

木質バイオマスボイラーと太陽光発電などの再生可能エネルギーも採用しています。木質バイオマスボイラーは、空調熱源として連年での利用を計画し、また、太陽光発電は、契約電力の半分を賙う計画とし、蓄電池を備えることで災害時の利用も可能となっています。

木質バイオマスボイラー

川場ベースでの冷暖房システムでは、熱源機として、木チップを燃料とする木質バイオマスボイラー（185kW）を採用しています。ボイラーから供給される温水を利用して、冷房時は温水蒸気吸収式冷水機を介して冷水を供給、暖房時は温水を直接利用することで、年間を通じた運用を行います。ボイラーは、電気熱源空冷ヒートポンプチャラーと組み合わせることで故障時のバックアップに配慮し、冷房時約30%、暖房時約50%の熱源を賙います。燃料となる木チップは、川場村の未利用間伐材から製造されたものを利用しています。



【冷房時】使用するエネルギーの
約30%を賙う



【暖房時】使用するエネルギーの
約50%を賙う



■ウッドビレッジ川場で木材を砕き、木チップにします



■川場ベースのエネルギーセンターに運ばれ、燃料となります



川場村の森林資源の活用

川場村は、村の面積の86%を山林が占めています。新しい庁舎では、この豊富な森林資源を活用すべく、地元木材を積極的に利用しています。近年、建築における木材の利用については、大断面集成材やCLTなど多様な構法が生まれていますが、今回は、加工までを含めてできるだけ地元で対応可能な技術で工事を行うことを目的とし、構造材としては主に杉の製材を用いています。その上で、大スパンを必要とする場所においては、木材だけにこだわらずに鉄骨と合わせて計画するなど、材料による特性を生かした構造計画としています。木材については、構造材だけでなく、床材や壁材、外装材など、樹種や使用場所の特性を考慮しながら様々な方法で利用することで、村の新しい顔となる施設を「川場らしく」表現しています。

川場村は、多くの「村有林」を保有しています。中でも特徴的な村有林が明治43年に創設され100年以上にわたって村民によって守られ続けている「学校林」があります。この学校林の面積は42ヘクタール（東京ドーム約10個分）と広大なものです。村の学校施設などの充実にも多大な貢献を行ってきました。林地の整備のため植林や下草刈り、防火線の手入れなどは、村の子ども達の奉仕活動として実施され、村の伝統行事として引き継がれています。このようにして村を挙げて緑を守る運動が現在でも展開されています。川場ベースでは、この村有林の木材を伐採し、内外装に利用しています。



構造モデル

川場ベースの各施設の構造計画においては、適材適所の考え方のもと、大スパンとなる事務室空間などは鉄骨造とし、それを取り囲む架構を木造としています。庁舎では、事務室や会議室を含む建物中央に二層の鉄骨フレームを組み、小部屋が連続する西側と屋根を木造で構成しています。交流ホールについては、庁舎と同様に、中央に鉄骨フレームを組んだ上で、庁舎から延長した同じ勾配の梁材を方柱と鋼材を用いてトラスを構成し、無柱のホールを構成しています。



2024年3月23日には新庁舎で移住促進イベントを開催



川場中学校の跡地利用について

2025年4月、小中一貫の義務教育学校「川場学園」の開校に伴い閉校となる現在の川場中学校の跡地利用を議論するため、村民有志、慶応大学教授らと「川場未来構想会議」を組織し、現在、新たな利活用方法を検討中

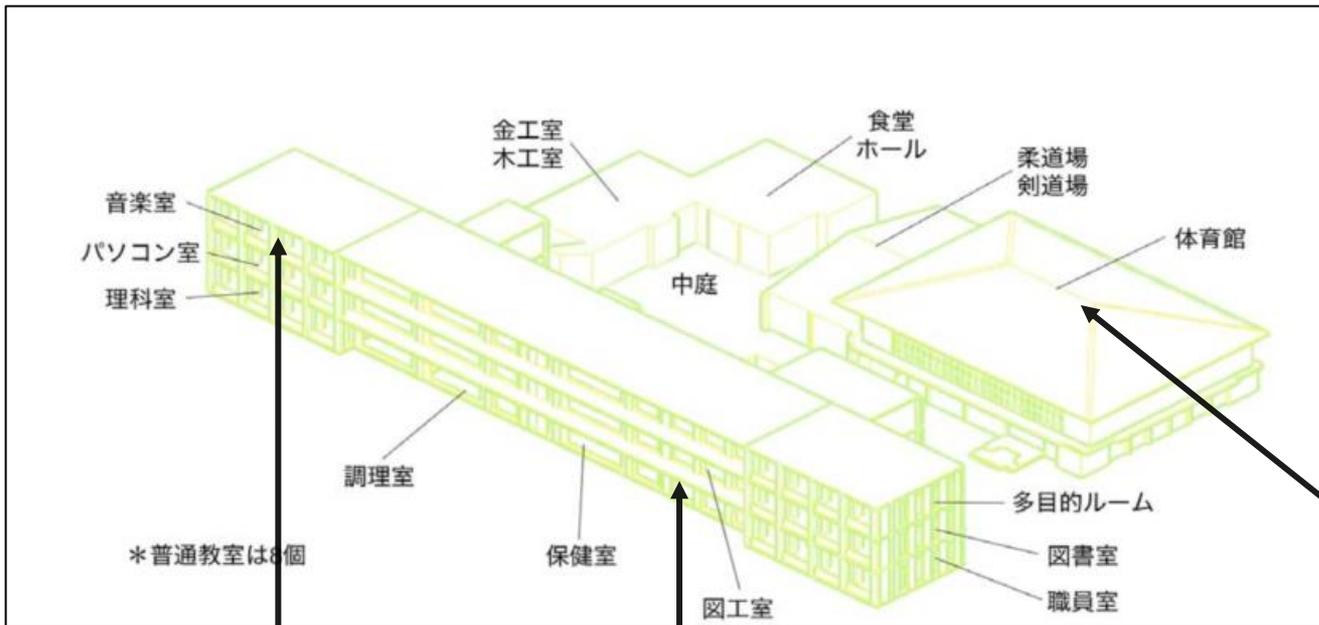


川場中学校 外観



川場未来構想会議メンバー

学校ならではの音楽室、図書館、体育館などの機能をそのまま活用し、新たな拠点を創設していく。
 また、川場村は自然災害が極めて少ない地域であるため、
 災害時の備えという観点からも他自治体との連携を見据えつつ中学校跡地の利活用を検討したい。



中学校全景



音楽室



教室



体育館

ご静聴ありがとうございました。

教育総合センターを 拠点とした 地域連携



世田谷区立
教育総合センター

世田谷区立教育総合センター長
宇都宮 聡



世田谷区はこんな自治体です



面積 58.05km²

地形 多摩川沿い国分寺崖線の
南西側は低地、北東側は台地
仙川や野川など多くの河川が暗きよ
上部を緑道としている

鉄道 私鉄3社7路線が乗り入れ
(JRはナシ、東横線は駅ナシ)

主な商業地

三軒茶屋駅周辺
下北沢駅周辺 (地名は北沢)
二子玉川駅周辺 (地名は玉川)

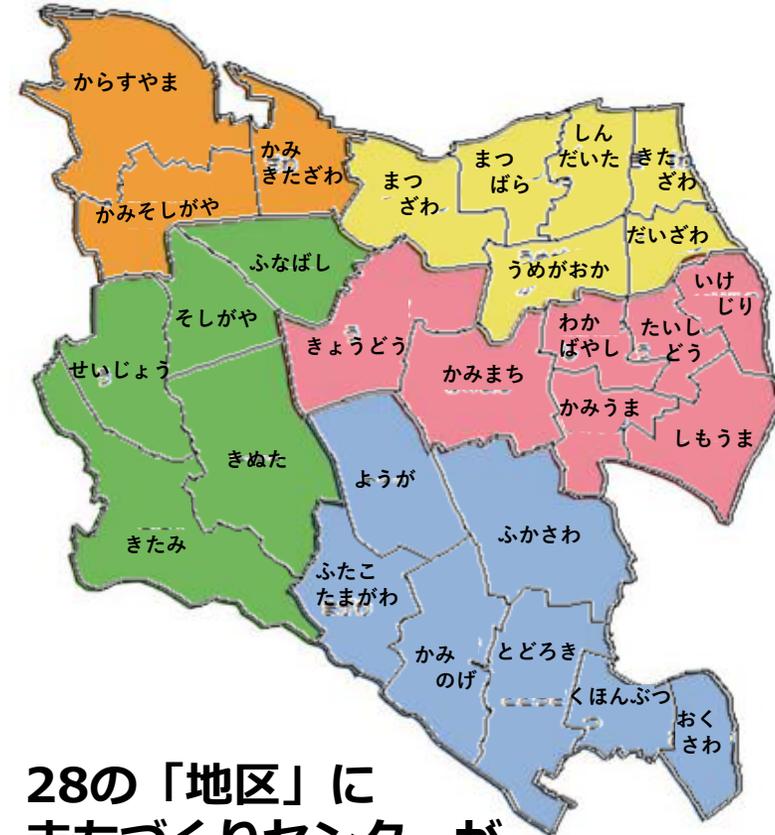
概況 人口は**920,596**人
(住民基本台帳、令和6年4月1日)
区内 + 隣接に**17**大学

世田谷区の「地域行政」とは

面積が広く、人口の多い世田谷区では区民に身近な区役所とするため区域を分けて事務を行っている。



5つの「地域」に
総合支所があります。



28の「地区」に
まちづくりセンターが
あります。

教育総合センター とは

教育総合センターは世田谷の教育を新しい時代に必要な教育へと転換していく中心的役割を果たす。

- 1 教育の質の転換
- 2 乳幼児期の教育・保育支援
- 3 **地域社会との連携推進**



●世田谷区立教育総合センターとは

教育総合センターでは、教育の質の転換を担う教員や、子どもたち一人ひとりに寄り添った適切な支援、乳幼児期の教育・保育を担う幼稚園教諭や保育士の人材育成、地域や大学・企業等との連携の推進に取り組みます。複雑化する教育課題を解決するため、学校・園の現場を様々な視点からサポートしていきます。

また、屋外広場やえがおの森(区民交流エリア)、らぼらボでは、様々な体験ができるなど、区民の皆さまにご利用いただけます。

教育総合センター 施設マップ



ホームページ



インスタグラム



若林小学校児童作成の施設紹介動画 (YouTube)

教育総合センターが目指すもの

子どもが生き抜く勇気と
自信をつけられるまち

= 目指すせたがやのまち

最上位目標を
見据えて考える

目指す子ども、教員、学校像

各学校、教育委員会、区長部局の施策

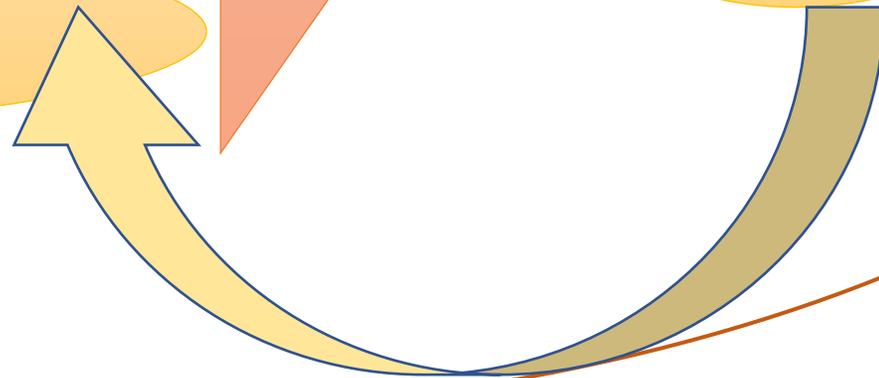
まち全体を学びの場に

育てたい子ども・学生像の共有

幼稚園・保育園 小学校 中学校 高校 大学

地域・企業が
必要とする人材

商店街、事業者、地域団体





まち全体を学びの場に

せたがやで出会う

「子どもが

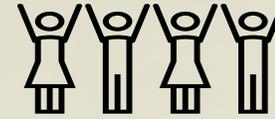
〇〇に出会えるまち」

ex.遊び、学び、大人、仕事

大学
企業
町会・自治会
商店街・事業所



学校教育
教育研究・研修
不登校支援
特別支援教育
乳幼児教育



区長部局

官民連携・行政手法改革担当課
市民活動推進課
商業課

政策研究・調査課

研修担当課



事業推進担当課

教育相談課
教育研究・ICT推進課
支援教育課
乳幼児教育・保育支援課

教育委員会

子どもの学びと育ちを地域で支えるための
教育総合センターの体制

泥遊びと洗濯講座

世田谷区立教育総合センター（若林5-38-1）

どろあそび & お洗濯講座

10月28日(土) 13:00~16:00

教育総合センターの土のひろばで、6月から9月まで月1回どろあそびの試行をいたしました。親子での参加が多く、水着を着せたり、着替えを持ってきたり、どろあそびに全力でご参加いただき感謝申し上げます！

さて、どろあそびを終えて家に戻ってから、どうやってどろんこ汚れを落とそうかと、対策に悩まれた方も多いのではないのでしょうか？
そこで今回は、どろあそびにさついで、「お洗濯講座」を開催いたします！洗濯洗剤のメーカー「花王」のご協力のもと、時短家事や汚れに合った洗濯方法などについて、家庭で実践できる工夫をご案内いたします。親子での参加をお待ちしております！



<貸出用品(予定)>
・スコップ
・バケツ (大・小)
・子ども用砂場セット
・中くらいのシャベル
など



【開催時間】※講座は雨天時も実施します。

(1) どろあそび(予約不要)

13時~16時

(2) お洗濯講座(要予約)

●1回目 13時30分~14時

●2回目 14時30分~15時

・10月2日(月)より募集開始、各回先着20名

※申し込みや持ち物など詳しくは二次元コードからご覧いただけます。

どろんこ遊び
ホームページ



洗濯講座は10名参加



学生の活躍推進(教育総合センターメッセ)



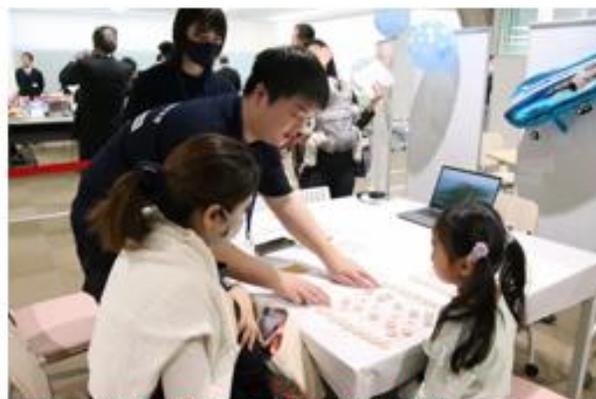
会場の様子



手作りパスポートで“入国”



母国語を教える交換留学生



中国版の将棋を教える交換留学生



【参画大学】

国土舘大学

成城大学

東京医療保健大学

駒澤大学

テンプル大学ジャパンキャンパス

日本女子体育大学



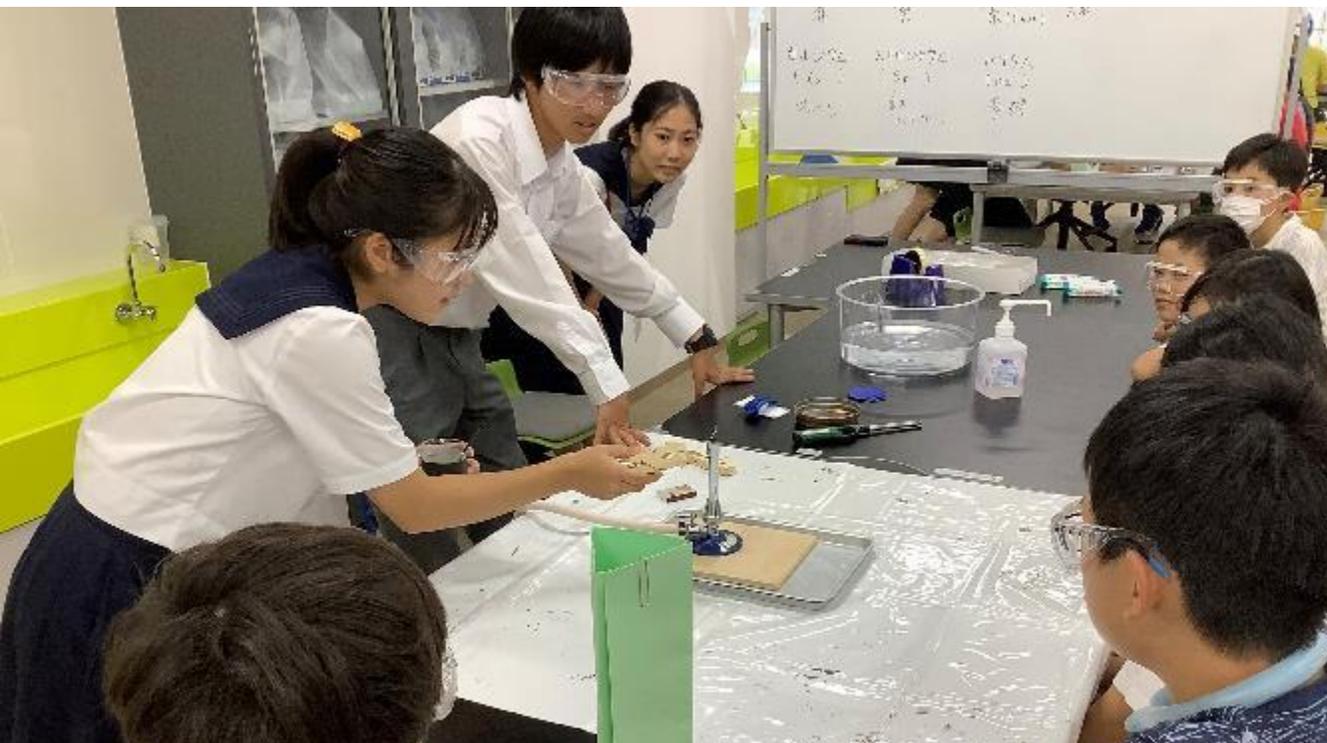
STEAM 教育講座

世田谷の子どもたちを育てよう

令和5年度STEAM教育指導員セミナーのご案内

世田谷の子どもたちにSTEAM教育(※)の指導をする、指導員育成を目的としたセミナーです。
科学系・技術系のお仕事や理数系の教員をされていた方、その経験を活かして、教育総合センターで、STEAM教育講座の指導・運営をしてみませんか。
高度な科学的知識、専門的な知識は要りません。必要な知識や指導のポイントはご説明していきますので、子どもたちに科学・技術などの魅力を伝えたいという方、ぜひご参加下さい。

※STEAM教育とは、各教科の知識や考え方を統合的に活用して課題の解決や創造する力、探求的な思考を育むことを目的としている。「科学(Science)」、「技術(Technology)」、「工学(Engineering)」、「芸術・教養(Art)」、「数学(Mathematics)」の頭文字をとった言葉です。



東京学芸大学附属高等学校の生徒によるスーパーサイエンス教室



STEAM教育指導員による講座

子どもと地域の協働

若林サミット

令和5年7月20日

世田谷区立
教育総合センター
学校と地域資源(大学・企業等)をつなぐハブ機能

「まち全体が学びの場」をコンセプトに、学校の枠にとらわれず、地域(学び舎)の中で多様な学びを選択できる仕組みを地域とともに考える会議。

子ども・教育 関連

若林児童館、新BOP

学校運営委員会
学校支援コーディネーター
地域人材 ほか

若林クラブ(高齢者地域スポーツ・文化クラブ)

豪徳寺保育園
世田谷保育園
私立幼稚園・保育園 ほか

子ども・若者部及び
教育各課とも連携

世田谷杜 の学び舎

世田谷区立 世田谷中学校

Nakabayashi Elementary School since 1871
世田谷区立若林小学校

世田谷区立山崎小学校

世田谷区立城山小学校

子どもたちのウェルビーイングな
学びの場づくり

地域団体等

若林まちづくりセンター(町会・自治会・青少年若林地区委員・民生児童委員・高齢者クラブ等)

国士館大学、東京医療保健大学、東京農業大学

若林中央商店会、若代商和会、松陰神社通り松栄会商店街振興組合

地元企業

松陰神社、NPO団体 ほか

区長部局の
関連各課とも連携



地域・大学・教育委員会との話し合い



子どもたちのアイデアが
まちの名物に



北海道中川町との交流

松沢小1、2年生が北海道中川町より講師を迎え作成。
コースターの材料は中川町のミズナラ。
キーホルダーは中川町の鹿の角を使用。



移動教室



こども里山自然学校（夏、冬）



群馬県川場村との交流



ふじやまビレジ・なかのビレジ（宿泊施設；1986年オープン）
小学五年生の移動教室や家族での保養、村民との交流などで利用



舟形町⇔ 代沢小学校・山崎小学校

代沢小学校・山崎小学校は舟形町の舟形小学校と交流事業をしています。夏は代沢・山崎小学校の児童が舟形町で川遊びや鮎つかみを体験し、グループに分かれて一緒に宿泊します。秋は舟形小学校の児童が世田谷区でホームステイ、子ども向け職業体験、東京観光などを行っています。

山形県舟形町との交流



新潟県十日町市との交流

新年子どもまつり

教育総合センターの取り組みの成果と未来を生きる子どもたちに身に付けたい力

①

世田谷区は地域資源に恵まれているがコロナ禍により関係性が希薄化

⇒センター開設を契機に、今の時代に合った形でコミュニティを再創出、世田谷区全体へ波及

②

「子どものためなら」の共有、共感を協働へ

⇒部局横断で地域資源とつなぎ、思いを形にできる場所と役割を担う

③

非認知能力

- ・自己認識
- ・意欲
- ・忍耐力
- ・想像力
- ・セルフコントロール
- ・メタ認知
- ・社会的能力
- ・対応力

教育総合センターと各自治体との連携（展望）

森林や雪など各自治体では当たり前前の資源も世田谷区には貴重で魅力的。

- 世田谷区の子どもたちに各自治体の資源を活かした体験を創出できるのでは。
- こうした体験等を通し自治体の魅力を知ってもらうことが関係人口、将来需要の掘り起こしにつながることも考えられる。
- 教育総合センターを拠点とした交流・連携には様々な可能性が眠っています。

ご清聴
ありがとうございます
ございました



世田谷区